

## 「ずるい」から「もったいない」へ

以前、生徒指導を担当していた時、イジメ問題があり、関係する子どもからなんでものような行為をしたかを聞きました。加害者のひとは「だって、〇〇はズリー（ずるい）よ。学校好きな時に休んだり、早退したり・・・。」「知っているとは思うけど、〇〇君は自分で心やからだを上手にコントロールするのが難しく、本人もおうちの人も困っているんだよ」「だけど、授業受けてないのに部活はやってるじゃん。ショッピングモールにも遊びに行ってるし・・・。」彼は納得していないようです。彼の健康状態、心身の働きや生活環境、考え方には違いがあること、それをお互いに認めることから始めることなどを話し、その後、今回の言動に間違いがなかったかを振り返ってもらいました。

私は、彼が話した「ずるい」が耳に残りました。言葉足らずな理由なのかもしれませんが彼にとって学校とは何としてでも行く所であり、休んだり早退する人は「ずるい」存在なのです。その根底には「学校は我慢して過ごす、楽しくない場所」という意識があるように感じました。彼にとって学校が楽しく、進んで行きたい所だとすれば、「ずるい」ではなく「学校休んで、もったいない」になるし、そんな学校にはイジメも起こらないのでは？と思いました。

子どもたちが「ずるい」から「もったいない」と思えるような学校にするにはどうしたらいいのか？生徒指導を担当していたあの時から続く、私の大きなテーマでもあります。

藤川俊彦（6月2日更新）